

令和6年度 第1回 蕨市スポーツ推進審議会 会議録

日 時 令和6年9月26日（木）

午後4時～午後5時

会 場 蕨市役所4階4-2大会議室(階段側)

出席委員／ 奥田昌利、宮原芳子、畑中隆一、秋山滋雄、平田道義、宮寄直子、
椿智絵、大武勝雄、熊田宣俊 各委員

欠席委員／ 佐藤則夫、松田悦典 各委員

事務局／ 松本教育長
加納教育部次長兼生涯学習スポーツ課長
小柴生涯学習スポーツ課長補佐
安永生涯学習スポーツ課スポーツ推進係主事

1 開 会

2 あいさつ

奥田会長、松本教育長

3 新委員紹介

宮寄委員、熊田委員

4 議長選出

奥田会長を選出

5 前回会議録の承認

承認された。

6 報 告

(1) 令和5年度 スポーツ関連 市予算 歳出決算報告について

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし

(2) 令和6年度 上半期事業報告について

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 市民水泳大会については、今年も民間スポーツ施設をお借りして実施でき

た。大会新記録は7つ出た。中学生の参加が少なかったように感じるが、次年度はぜひ参加してもらいたい。

委員：昔は市のスポーツ大会にはみんなが参加していた。

プールの維持管理が難しい等の事情で学校のプールが成り立たない。民間の施設でいい指導者に会えるのであれば、それはそれでいいと思うが。

委員：水泳連盟主催で市民水泳教室を実施している。コロナ禍で数年間実施できず、昨年度から再開した。民間のスイミングスクールなどに通っている子と学校の水泳授業のみの子との水泳技能に関する格差は大きい。水泳連盟としてはスイミングスクールに通えない子でも小学校卒業までには最低25mは泳げるようにサポートしたいと考えている。

屋外のプールは雨・暑さ等の天候に左右される。屋外では子どもたちも指導者も昨今の猛暑に参ってしまう。民間のプールをお借りするか、市内に屋内プールを建てていただく、または、隣接市の屋内プールを利用させてほしい。また、金銭的に民間のスイミングに通えない子に対して補助があるといい。

今年度は、中学校の強化練習を川口市と蕨市の水泳連盟で共催している。

委員：スポーツ協会支部球技大会については、歴史が古く、学校を会場として実施している。児童に対する呼びかけは、学校も担っていただけるとありがたい。また、親子で参加できるような種目を考えていくことも必要だろう。

事務局：各支部で工夫して運営している。例えば、北町支部では新種目としてネオホッケーを実施した。子どもたちが、北小で練習している、全国レベルのチームの指導を受けながら楽しんでいた。また、南町支部のドッジボールは子ども中心のプログラムとして実施した。

どの行事もコロナの影響が大きい。ここ1～2年で行事が復活したが、参加者数等は、肌感覚だがすぐに元に戻らない印象。

委員：各支部で、特徴的なもの、中心的なものがあると集客につながると理解した。

実施に当たって、それぞれ、どのような広報をしたのか。

事務局：子ども会育成会の方々がそれぞれの子ども会で呼びかけたり、町会によっては掲示板や回覧板を利用した。地域の口コミによるPRを実施しているが、少子高齢化やコロナの影響で参加者の確保にご苦労されていると聞いている。

委員：何をもって球技大会が成功したと言えるのか。今まで、「参加者数が前年度より多くてよかった」「内容がよかった」等、手探りでやってきた。参加者数等の目標値があるといいのではないか。種目も3世代でできるもの等をテーマを決めて市を挙げて取り組んではどうか。

委員：市の広報誌に掲載するなどに行っているのか。

- 事務局： 掲載はしているが、市の様々なお知らせに掲載するため、あまり大きな記事にはなっていない。
- 委員： 支部体育祭には目新しさが無い。プロや専門家を招くなどの目玉があると新しい参加者を呼び込むことができるのではないか。「見るスポーツ」も重要。
- 報告にあったタグラグビーの参加人数が少なくてもったいない。支部体育祭で同じようなことができれば、たくさんの人がプロのすごさを目にすることができると思う。
- 事務局： ご意見として受け取る。
- プロを招く場合、オフシーズンであることや選手の健康管理等の条件を提示されるが、折り合いがつけば可能かと思われる。

7 そ の 他

- 委員： 今年度、富士見公園内野球場の改修工事があり、6～9月の4か月の工事期間を経て10月から利用再開となった。グラウンドを見たら、きれいになっていた。
- 委員： 他市の事例だが、「子ども向けのサッカー教室をやりたいが、芝のグラウンドがない」ような地域では、野球場の外野の天然芝を利用して教室を実施しているところもある。蕨市でもそういう利用を考えてもいいのではないか。
- 委員： 中学校の部活動には、どのくらいの生徒が参加しているのか？
- 委員： 蕨市も2年前から部活の加入が強制的なものから任意となったが、8～9割の生徒が部活動に加入している。加入していない生徒も、何もやっていないわけではなく、地域や民間のクラブチームに入るなど学校外に活動の場所があると聞いている。
- 事務局： 土・日曜日は子どもを地域に帰すというもともとの国の方針があり、蕨市では中学校部活動「地域移行」の実証事業として、陸上、剣道、柔道の3種目を地域クラブとして実施し、県内でも早くから取り組んでいる。文化部についても同じように地域クラブとしていく方針が出ている。
- 委員： 中学時代の部活動を通じての出会いが大切である。

8 閉 会

午後5時閉会